

# 御杖小学校 御杖中学校 通信



～礼儀正しく あいさつの声がひびく 笑顔あふれる学校をめざして～

2025年6月

## ウズベキスタンの子どもたちとの交流

小学校・中学校

～国際理解学習を積み重ねています～



「グローバルな視野・感覚をもった子どもたちを育てなくてはならない」と、人々の間で声高に言われるようになり久しいですが、ICT教育の導入が教育界に急速に進み、学校がダイレクトに世界と繋がることが日常的に可能な時代となってきました。御杖小学校・中学校では以前より、JICA（ジャイカ）青年海外協力隊と密な関係を作っており、昨年度は、JICA元インド隊員の福西真実さんに2度来校していただき、小学校では「世界で活躍する日本人」と題してJICA隊員の活動内容や海外の文化や世界事情を教えていただき、中学校では、「世界で起きている問題」と題して、戦争・内戦による難民問題について詳しく教わりました。

今年度は、JICA現ウズベキスタン隊員の石上佳菜さんの協力のもと、ウズベキスタンにある小児がん病棟で過ごす子どもたちと、リモート通信で直接交流をすることになりました。全3回の活動計画を立て、去る5月12日に第1回目の交流をしました。ウズベキスタンに在住する石上隊員から国内の様子や人々の暮らし、気候や宗教のことなどを教わったり、現地の街や文化遺産を映像で見せてもらったりして、子どもたちからもたくさんの歓声があがりました。5月30日、2回目は画面を通じてウズベキスタンの子どもたちと直接交流しました。6年生が「お城」をテーマに日本の紹介をすると、先方からのたくさんの質問がでたり、終わりには日本式のジャンケンで「国際ジャンケン大会」(笑)をしたりで大盛り上がりでした。3回目の交流は7月10日を予定しています。次回は5年生が中心となり自己紹介や日本の文化の紹介をし、ウズベキスタンの子どもたちからも自国の紹介をする予定をしているとのこと。この取組は、ウズベキスタン側の保護者や教員、病院のスタッフからも大好評で、病棟に居る子どもたちの「病状の緩和」や「病院の外の広い世界を知りたい」というニーズにも叶うものであり、日本とウズベキスタンの双方の願いが繋がった「国際交流」であります。この経験はきっと御杖の子どもたちの思考や判断の視野を広げ、そして「心」にも深く刻まれることだと思います。また、この学習の延長として、来たる9月5日に予定しております「万博」を見学し、世界中の国々の文化や歴史、また未来についてたくさんのことを学ぶ機会に繋いでいきたいと考えています。勿論、万博見学の後も引き続き、JICAの隊員の方をゲストティーチャーとしてお呼びし、学習を積み重ねていく予定です。

## WAKUWAKUタイム活動報告 中学校



### 歴史・文化班の活動

村に残される「郷土御杖」の文献記録を元に、土屋原城の調査を進めています。今回の調査では、土塁跡（のろしを上げる台）や山城の堀切跡を確認できました。



### 自然・環境班の活動

「自然災害」の調べとして、「伊勢湾台風」について桃俣在住の岡田法顯さんを講師にお招きし、当時の被害状況や被災後の活動について詳しく聞き取りました。

## 林間合宿にいらっしゃいました！ 小学校



今年の林間合宿は曾爾青少年自然の家で行いました。天候にも恵まれた1日目（6月2日）の最初の活動は、木のスプーン作りです。自分の気に入った木を選び、ヤスリなどの道具を使ってそれぞれが好きな形や手触りの物に仕上げていきました。午後からは亀山登山です。新緑が気持ちいい季節です。一面緑色に包まれた景色の中、全員が元気に山頂に到達しました。下山後は野外炊飯です。自分たちで火を起し、野菜を切り、お米を炊き、一味も二味も違う美味しいカレーライスが出来上がりました。夜は、楽しみに準備を重ねたキャンプファイアーです。みんなが考えた出し物で歌い踊り、ゲームやクイズも楽しみました。応援に小学校だけでなく中学校の先生方も駆けつけて、大盛況に終わりました！

翌日はあいにくの雨天でしたが、館内の至る所に掲げられたクイズを解いて回ったり、板状に切られた木を積み重ねていく「カプラ」という遊びをしたりと楽しい時間を過ごすことが出来ました。2日間、大きなケガや体調を崩す人もなく、思い出多き楽しい林間合宿となりました。

## 「想定外」を「想定」した避難訓練！



去る6月12日、地震災害に対する避難訓練を行いました。今年度は、小学校・中学校双方の生徒指導主任の発案で、従来とは異なった「予想していない事態が発生した時の判断や対処を学ぶ」ことを目的とした「想定外を想定した」避難訓練を行いました。何も知らされていない児童生徒と教員が、通常の避難マニュアルに沿って避難すると・・・避難ルート上に、割れたガラス、落ちてきた天井、歪んで開かなくなったドア、がれきの散乱で通れない廊下・・・マニュアル通りには行かず、教師も児童もその場で判断し、瞬時にルートを考えて避難する。より現実に近い、起こりうる事態に対応することに慣れることが非常に大事だと考えています。実際の避難訓練は通常より時間は要しましたが、児童生徒、教員もスムーズに落ち着いて行動し、放送で場所変更の指示があった避難場所に集まることが出来ました。今後もどんどん新しい発想で、より現実味を帯びた「生きた避難訓練」を実施していきたいと考えています。

## 学校運営協議会の活動



学校運営協議会とは、保護者や学識経験者、民生委員、区長会代表等の地域の方々で構成され、学校の教育目標やビジョンを共有していただき、学校が取り組む「地域と一体となって子どもたちを育て、地域とともにある学校」づくりと一緒に目指して活動していただく組織です。今年度の2月に、この学校運営協議会を中心とした、学校協働実行委員会の活動や地域の方々の活動、学校の教育活動の内容が総合的に評価され、「文部科学大臣表彰」を受賞したことはこの紙面でもご報告しました。今年度も、活動は始まっており、6月16日に第1回目の協議会が開催されました。授業参観を通じて学校や子どもたちの様子を把握していただき、様々なご意見やご指導をいただきました。今後とも引き続き、学校の教育活動にご理解をいただき、ご支援、ご協力をお願い致します。